

平成22年度埋蔵文化財発掘調査報告書

平成28年 3月

上牧町教育委員会

平成22年度埋蔵文化財発掘調査報告書

平成28年 3月

上牧町教育委員会

例 言

1. 本書は、平成22年度に実施した^{きたかつらぎぐんかんまきちょう}北葛城郡上牧町大字^{かんまき}上牧3171番地外における店舗・宅地造成にともなう試掘調査の報告書である。
2. 現地調査は、奈良県教育委員会の指導の下に、上牧町教育委員会が実施した。
3. 調査期間は、平成23（2011）年1月21日～同年3月29日まで行った。
4. 平成22年度における調査体制は以下のとおりである。

上牧町教育委員会	教育長	奥田 悦夫
	教育部長	青木 俊一
社会教育課	課長	下間 常嗣
	係長	柳原 由英
	主査	森本 朋人
	臨時職員	石橋 忠治（調査担当）
5. 平成27年度における発掘調査報告書作成の体制は以下のとおりである。

上牧町教育委員会	教育長	松浦 教雄
	教育部長	藤岡 達也
社会教育課	課長	塩野 哲也
	課長補佐	寺口万佐代
	係長	眞柴 淳彦
	主査	岡本 悠子
	技師	石橋 忠治（報告書担当）
	発掘調査指導員	関川 尚功（報告書担当）
6. 現地の調査においては、奈良県教育委員会文化財保存課 宮原晋一主幹 小池香津江主査の御指導を頂いた。
7. 報告書の作成においては、奈良県立橿原考古学研究所 須藤好直 卜部行弘 光石鳴巳 鈴木一議 鶴 真美氏の御指導・御協力を頂いた。
8. 本書の執筆は、関川・石橋が行った。

本文目次

第Ⅰ章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の経過	
第Ⅱ章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第Ⅲ章 調査の結果	7
第1節 上牧町内における既往の埋蔵文化財調査	
第2節 調査地周辺のこれまでの調査	
第3節 トレンチ調査の結果	
第Ⅳ章 出土遺物	22
第Ⅴ章 まとめ	23

挿図目次

図1 調査地周辺の遺跡分布 (1/3万)	図7 1～10トレンチ断面図 (1/200)
図2 調査地周辺地籍図	図8 11～20トレンチ断面図 (1/200)
図3 調査位置図 (1/5,000)	図9 21～24トレンチ断面図 (1/200)
図4 調査区位置図 (1/4,000)	図10 25～28トレンチ断面図 (1/200)
図5 東調査区トレンチ位置図 (1/1,500)	図11 遺物 (土器・磁器1/3、石器2/3)
図6 西調査区トレンチ位置図 (1/1,500)	

図版目次

- | | | | |
|------|---|------|---------------------------------------|
| 図版1 | 調査地全景（上空より・上が北） | 図版15 | 第10トレンチ北側全景（北より） |
| 図版2 | 調査地遠景（南西より）
調査地伐採後遠景（南西より） | 図版16 | 第11トレンチ全景（北より）
第12トレンチ全景（東より） |
| 図版3 | 調査区西側遠景（南東より）
調査区東側遠景（南東より） | 図版17 | 第13トレンチ全景（北西より）
第14南トレンチ全景（南より） |
| 図版4 | 第8・9トレンチ調査前遠景（北より）
第21トレンチ調査前遠景（西より） | 図版18 | 第15トレンチ全景（南東より）
第16トレンチ全景（南東より） |
| 図版5 | 第19トレンチ調査時遠景（東より）
第19トレンチ北側調査前丘陵地（東より） | 図版19 | 第17トレンチ全景（南東より）
第18トレンチ全景（西より） |
| 図版6 | 第27トレンチ調査前遠景（北より）
第23トレンチ調査前遠景（北東より） | 図版20 | 第19西トレンチ全景（南より）
第20トレンチ全景（西より） |
| 図版7 | 第26トレンチ調査前遠景（西より）
第25トレンチ調査前遠景（西より） | 図版21 | 第20トレンチ全景（東より）
第21東トレンチ全景（東より） |
| 図版8 | 第5・7トレンチ調査前近景（北西より）
第4・6トレンチ調査前近景（南より） | 図版22 | 第21西トレンチ全景（東より）
第22トレンチ東側全景（東より） |
| 図版9 | 第1・21トレンチ調査前近景（南より）
第27トレンチ調査前近景（東より） | 図版23 | 第22トレンチ西側全景（北西より）
第23北トレンチ全景（南より） |
| 図版10 | 第1トレンチ全景（南より）
第2北トレンチ南半部全景（北より） | 図版24 | 第23南トレンチ全景（南より）
第24北トレンチ全景（北西より） |
| 図版11 | 第2南トレンチ全景（北より）
第3トレンチ全景（北東より） | 図版25 | 第24南トレンチ全景（南東より）
第25北トレンチ全景（南東より） |
| 図版12 | 第4トレンチ全景（北西より）
第4～7トレンチ全景（南より） | 図版26 | 第25南トレンチ全景（北西より）
第26トレンチ北側全景（北東より） |
| 図版13 | 第6トレンチ全景（北西より）
第7・5トレンチ全景（南西より） | 図版27 | 第26トレンチ南側全景（北東より）
第27トレンチ全景（西より） |
| 図版14 | 第8東トレンチ全景（西より）
第9トレンチ全景（東より） | 図版28 | 第27トレンチ全景（東より）
第28トレンチ全景（南東より） |
| | | | 第28トレンチ全景（北西より） |

第 I 章 調査の経緯と経過

第 1 節 調査に至る経緯

平成19年9月、上牧町三軒屋地区北側丘陵地帯の一部において、店舗・宅地造成の事業計画が上牧町に提出された。開発地の現状は山林・竹林と畑となっている。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、開発総面積が107,563㎡であり、1万㎡を超えることから、開発業者は遺跡有無確認踏査願を奈良県教育委員会教育長あてに、上牧町教育委員会へ提出した。上牧町教育委員会では、踏査の実施を奈良県教育委員会文化財保存課に依頼した。

この依頼を受け、奈良県立橿原考古学研究所は平成21年11月12日に踏査を行い、開発区域内に平場、おちこみ、土塁状の起伏を確認し、開発区域北東側の畑より土師器片、サヌカイト製の剥片を採取したことなどから、試掘調査の必要性がある、と報告した。この報告をもとに、平成22年3月23日付けで、奈良県教育委員会は、試掘調査の実施が必要と上牧町教育委員会及び開発業者に回答した。

奈良県教育委員会の通知を受け、上牧町教育委員会は平成22年12月10日付けで、埋蔵文化財包蔵地等の異動について申請を行い、平成22年12月17日付けで奈良県教育委員会からの通知により、当該地は埋蔵文化財包蔵地（10B-0129）として新規登録された。上牧町教育委員会は開発業者に当該地が埋蔵文化財包蔵地であると回答した。

これを受けて、開発業者より平成23年1月12日付けで、上牧町教育委員会に埋蔵文化財発掘届出書が提出された。

その後、上牧町教育委員会、奈良県教育委員会、開発業者を含めた三者で試掘調査に関する協議を行った。この結果、平成23年1月21日より、上牧町教育委員会が試掘調査を実施することとなった。

第 2 節 調査の経過

試掘・確認調査は平成23年1月21日から3月29日まで実施した。調査開始日の1月21日には、竹・雑木の伐採、ぶどう畑の金網撤去を行った。1月26日から、第1・3トレンチより重機による機械掘削作業を開始した。

調査トレンチは、東調査区の尾根・窪地・谷部に第1～21トレンチ、西調査区の尾根・窪地・谷部に第22～28トレンチを設定した。トレンチの表土除去には重機を使用し、その後、人力掘削により、遺構検出作業を行った。

トレンチ設定箇所は28地点で、調査地点は総数37箇所である。調査トレンチの総延長は783.5m、総面積は1821.6㎡である。

調査日誌抄

- 1月21日 調査道具の搬入。第1～3トレンチの竹・雑木伐採、ぶどう畑の金網撤去。
- 1月22日 第4～7・9～16トレンチの竹・雑木伐採。第1～7、9～16トレンチ設定。
- 1月24日 第17～21トレンチの雑木伐採。第1・3トレンチ設定。
- 1月25日 第2・21トレンチの竹・雑木伐採。第2トレンチ設定。
- 1月26日 第1・3トレンチ機械掘削。第1・3トレンチの清掃。
- 1月27日 第2・3・8トレンチの機械掘削。奈良県教育委員会文化財保存課宮原主幹・小池主査が調査指導。
- 1月28日 第2・3トレンチの機械掘削。第1トレンチの清掃・写真撮影。
- 1月29日 第10トレンチの機械掘削。第1トレンチの清掃・写真撮影。
- 1月31日 第1トレンチの記録作業、第2トレンチの清掃・写真撮影。第10・11トレンチの機械掘削・清掃。
- 2月1日 第2・3トレンチの清掃・写真撮影。第4・6・11トレンチの機械掘削。
- 2月2日 第4～7トレンチの機械掘削。
- 2月4日 第8トレンチの清掃。第12トレンチの機械掘削・清掃。
- 2月5日 第9トレンチの清掃・写真撮影。第12トレンチの記録作業。
- 2月7日 第2・11トレンチの清掃・写真撮影。第12・13トレンチの機械掘削・清掃。
- 2月8日 第4～7トレンチの記録作業。第8～10トレンチの清掃・写真撮影。第12・13トレンチの機械掘削。
- 2月9日 第12・13トレンチの清掃・写真撮影。第14・15トレンチの清掃。第16・17トレンチの機械掘削。
- 2月10日 第13トレンチの記録作業。第14～16トレンチの清掃・写真撮影。第19トレンチの機械掘削。奈良県教育委員会文化財保存課宮原主幹・小池主査が第1トレンチほか調査指導。
- 2月13日 第8～10トレンチの機械掘削・清掃。第17トレンチの清掃・写真撮影。
- 2月14日 第17トレンチの清掃・写真撮影。第8～13・18トレンチの機械及び人力の掘削。
- 2月17日 第1・2・8・10トレンチの機械及び人力の掘削。
- 2月18日 第20トレンチの機械掘削、第2・3トレンチの清掃。
- 2月19日 第10・11トレンチの記録作業。第19トレンチの清掃・写真撮影。第20トレンチの機械掘削。
- 2月21日 第2トレンチの清掃・写真撮影。第2・14～16トレンチの記録作業。
- 2月22日 第2・19トレンチの清掃・写真撮影。第16・18トレンチの記録作業。第20トレンチの機械掘削。
- 2月23日 第10トレンチの清掃・写真撮影。第18トレンチ機械掘削。第20トレンチの清掃・写真撮影。
- 2月24日 第2・10トレンチの記録作業。第18トレンチ機械掘削・清掃。
- 2月26日 第2トレンチの清掃・写真撮影。第21トレンチの機械掘削。
- 3月2日 第1・2トレンチの写真撮影・記録作業。第21トレンチの機械掘削・清掃。
- 3月3日 第1トレンチの記録作業。第21トレンチの清掃・写真撮影・記録作業。
- 3月4日 第21トレンチの写真撮影。第20・21トレンチの記録作業。第22～28トレンチの雑木伐採。
- 3月5日 第20トレンチの記録作業。第22～27トレンチの雑木伐採及びぶどう畑の構造物撤去。

- 3月7日 第22～28トレンチの雑木伐採。第22～24トレンチの機械掘削・清掃。奈良県教育委員会文化財保存課
宮原主幹と小池主査が調査後のトレンチの埋戻しについて指導。
- 3月8日 第21トレンチ記録作業。第22トレンチの清掃。第24トレンチの機械掘削。
- 3月9日 第21トレンチ記録作業。第24トレンチの清掃・写真撮影。第25・27トレンチの機械掘削。
- 3月10日 第25トレンチの機械掘削・清掃。第27トレンチの清掃。
- 3月11日 第24トレンチの記録作業。第25トレンチの清掃・写真撮影。
- 3月12日 第24・25トレンチの記録作業。第26トレンチの機械掘削・清掃・写真撮影。
- 3月13日 第22トレンチの機械掘削。第26・27トレンチの清掃。第28トレンチの雑木伐採。
- 3月14日 第22・23・28トレンチの機械掘削・清掃。第26トレンチの清掃。第27トレンチの記録作業。
- 3月15日 第22・27トレンチの清掃・写真撮影。第25・26トレンチの記録作業。
- 3月17日 第23トレンチの清掃・写真撮影。第27トレンチの記録作業。第28トレンチの清掃。
- 3月18日 第22・28トレンチの記録作業。第23トレンチの機械掘削・清掃。第28トレンチの清掃。
- 3月20日 第21トレンチの埋戻し。第23トレンチの清掃。
- 3月22日 第21トレンチの埋戻し。第23トレンチの記録作業。
- 3月23日 第21・25トレンチの埋戻し。第23トレンチの清掃。
- 3月24日 第4・6・27トレンチの埋戻し。第23トレンチの清掃・写真撮影・記録作業。
- 3月25日 第1・2・4・7～11トレンチの埋戻し。
- 3月26日 第1・2・8・9・12・15～17・26・27トレンチの埋戻し。
- 3月27日 第2・3・17・22・23・26トレンチの埋戻し。
- 3月28日 第10・11トレンチの埋戻し。撤収作業。
- 3月29日 調査道具の搬出。調査を終了。



調査終了後の状況（南西より） 平成25年9月撮影

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 地理的環境

奈良県北葛城郡上牧町は、奈良盆地の西部に広がる馬見丘陵の中西部に位置する。

馬見丘陵の形成基盤は花崗片麻岩類で、下牧周辺において露出している。この基盤の上に砂・粘土よりなる海生層の「馬見累層」が堆積し、さらに河川の浸食によって、現在みるような標高70～80mの起伏を持つ低丘陵が形成された。

馬見丘陵の西側には葛下川が流れ、また丘陵内部には、西に滝川、東に佐味田川が大和川に向かって北流する。馬見丘陵はこの滝川と佐味田川により、西・中・東の3つの支丘に分かれる。

上牧町の町域中央部には滝川が流れ、川沿いに狭い沖積地が細く広がる。上牧町内の沖積地は、ほかに葛下川流域に沿う一部の地域に見られるのみである。

今回の調査地は、この滝川流域中央部東岸にあたる丘陵地帯である。この丘陵の南端には「三軒屋」、東には「新町」の集落が位置する。

この「三軒屋」の南前面から「新町」にかけては、滝川より北東方向にのびる長さ約700m、幅約100mの谷となり、ここには「新村谷」の字名が残る。

第2節 歴史的環境

上牧町内では、旧石器・縄文時代の遺跡は明らかではない。弥生時代には観音山銅鐸出土地において上牧銅鐸が出土し、このほか上牧久渡遺跡、穴闇遺跡がある。

古墳時代には、国史跡・上牧久渡古墳群のほか松里園古墳群がある。単独立地の古墳としては、陣ノ山（上牧高塚）古墳が知られている。

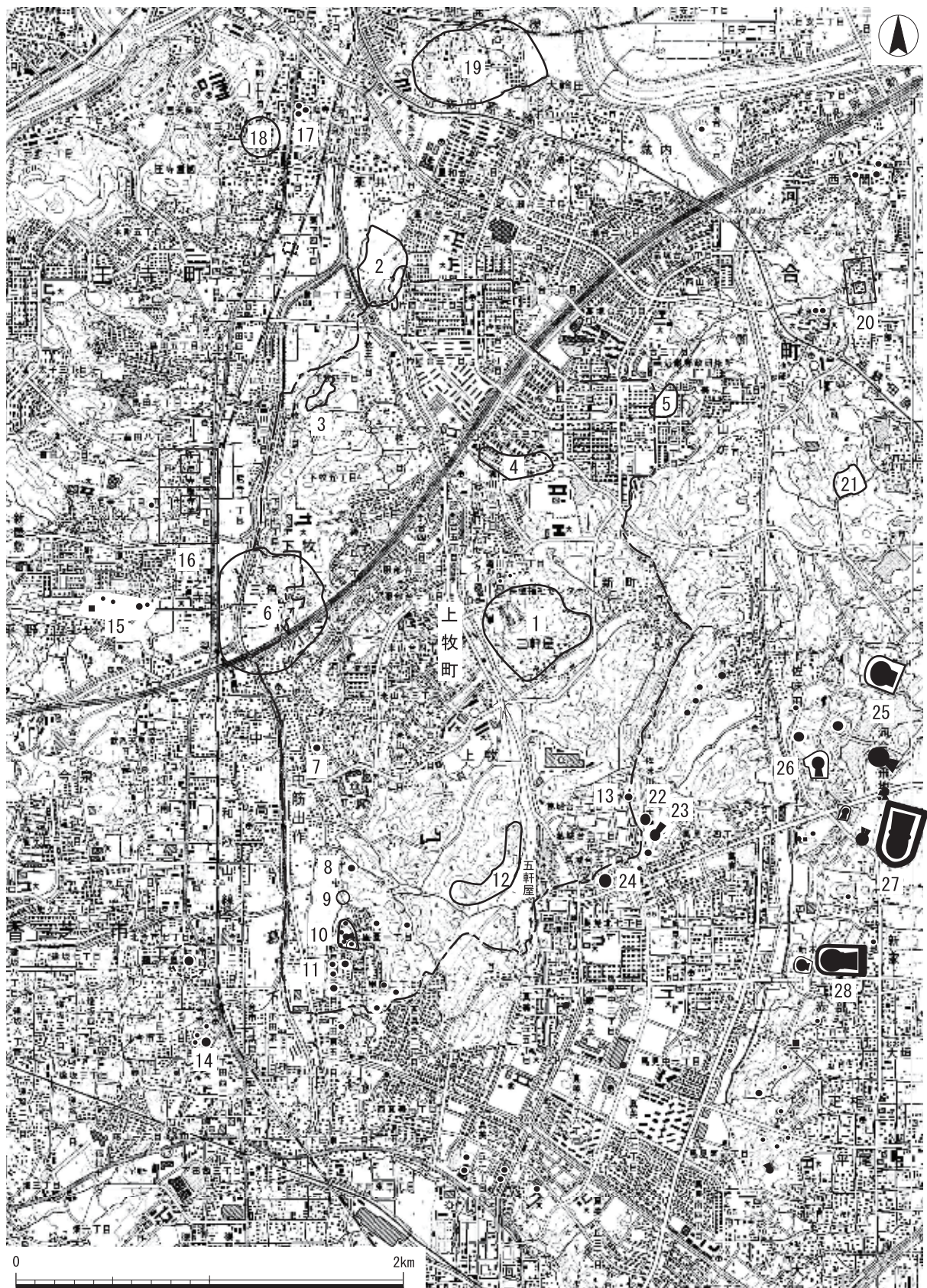
調査地の西を流れる滝川の流域には、飛鳥・奈良時代の瓦窯と瓦散布地が3箇所知られ、上牧町の特徴ある遺跡として重要である。

滝川と葛下川との合流地点付近には、香滝・薬井遺跡がある。瓦窯の本体は未確認であったが、ここで平城京の長屋王邸と同型式の瓦が出土した。

調査地の北約700mには、下牧瓦窯跡が位置する。これまでの調査により、ここで生産された瓦も長屋王邸や平城京内の寺院などに運ばれたことが判明しており、奈良時代の上牧町を代表する遺跡である。

また、滝川沿いの南約1kmには大谷瓦散布地があり、飛鳥川原寺と同形の軒平瓦が採集されている。これまで奈良時代の文献により、広瀬郡に川原寺瓦窯が存在することが想定されており、この大谷瓦散布地がそれに該当する可能性が高まった。

このように、滝川流域は飛鳥の寺院や、長屋王・平城京にかかわる重要な瓦生産地帯であったことが明らかになってきた。



1. 調査地 2. 香滝・薬井遺跡 3. 片岡城跡 4. 下牧瓦窯跡 5. 穴間遺跡 6. 木辻城跡 7. 宮ノ谷古墳 8. 浄安寺裏山古墳 9. 観音山銅鐸出土地 10. 上牧久渡古墳群 11. 松里園古墳群 12. 大谷瓦散布地 13. 陣ノ山(上牧高塚)古墳 14. 北今市古墳群 15. 平野古墳群 16. 尼寺廃寺跡 17. 達磨寺古墳群 18. 片岡王寺跡 19. 舟戸・西岡遺跡 20. 長林寺跡 21. 馬見二ノ谷遺跡 22. 貝吹山古墳 23. 佐味田宝塚古墳 24. 牧野古墳 25. 乙女山古墳 26. ナガレ山古墳 27. 巢山古墳 28. 新木山古墳

図1 調査地周辺の遺跡分布(1/3万)



图2 調査地周辺地籍図(上牧町1889)

第Ⅲ章 調査の結果

第1節 上牧町内における既往の埋蔵文化財調査

これまで、上牧町内において行われた埋蔵文化財調査は、次頁の表のとおりである。

平成22年度以前の各調査は、馬見丘陵化石出土地の1箇所を除き、すべて奈良県教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所によって実施された。

上牧町内で行われた最初の埋蔵文化財調査は、昭和35（1960）年に初めて存在が明らかになった、下牧における下牧瓦窯跡の調査である。

その後は、上牧町史編纂にともない、それまでの埋蔵文化財関係資料がまとめられ、あわせて町内の遺跡・古墳の分布調査により、ほぼ町内の遺跡・古墳が把握された。

昭和53（1978）年には、五軒屋において大規模宅地開発（葛城台団地）が計画され、事前踏査が行われた。この結果、陣ノ山（上牧高塚）古墳が開発区域内に含まれることが判明したが、現状保存されることとなった。

また、松里園古墳群においては、昭和29（1954）年に1号墳が確認され、その後は宅地開発が進む中で、昭和57（1982）年には2号墳の調査が行われた。

その後も上牧町内の宅地開発の急増にともない、西大和ニュータウンでは馬見丘陵化石出土地、弥生時代前期の遺物を出土した穴闇遺跡などの調査が行われた。

このほか、平成21（2009）年には、墓地造成（さとやま浄苑）にともなう、大谷瓦散布地においても踏査・試掘が行われ、瓦片などが出土したが、遺構は存在しなかった。

第2節 調査地周辺のこれまでの調査

三軒屋地区周辺の開発行為は、昭和40年代には、調査区北方で「滝川台団地」の宅地開発が行われ、これ以降、周辺地域の開発が活発化してきた。

今回、調査を行った三軒屋地区とその周辺では、これまでに上牧町関連施設の建設や宅地開発に対して、奈良県立橿原考古学研究所により、数度にわたる試掘調査や踏査が実施され、この地区の状況が明らかにされている。

調査地付近における埋蔵文化財包蔵地の確認は、『上牧町史』（1977）において、古墳・古墳状隆起として「回り山古墳群」が記載された。

昭和56（1981）年には宅地造成のため、踏査が行われたが遺跡は確認されなかった。平成2（1990）年には、上牧町文化センター建設にともなう事前の試掘調査が行われたが、遺構・遺物は確認されなかった。

表 上牧町内埋蔵文化財調査一覧

番号	調査機関	区分	調査地	遺跡名	遺跡地図	事業名	調査期間	文献
1	檀考研	発掘	下牧字間谷	下牧瓦窯跡	10B-7	採土工事	1960.0110	奈良県抄報15
2	井関一男	採集	米山台1丁目	馬見丘陵化石出土地	10D-204		1965.春	河合町史1981
3	檀考研	発掘	下牧	下牧瓦窯跡	10B-7	農業用水管	1972.0821-0825	遺跡調査室便りNO3
4	檀考研	立会	下牧	下牧瓦窯跡	10B-7	農業用水管	1975.0317	檀考研年報1974
5	檀考研	立会	上牧字回り山	回り山古墳群	10B-8	遺跡確認	1977.0616	檀考研年報1977
6	檀考研	試掘	五軒屋	陣ノ山古墳	10D-31	宅地造成	1978.0424-0425	県概報1978
7	檀考研	踏査	上牧字山ノ谷			公営住宅用地造成	1981.1006	
8	檀考研	踏査	上牧4424	松里園古墳群	10D-6	宅地造成	1981.1216	檀考研年報1981
9	檀考研	踏査	上牧字井戸ヶ尻			宅地造成	1981.1216	檀考研年報1981
10	檀考研	踏査	上牧字大砂	回り山古墳群	10B-8他	宅地造成	1981.1223	檀考研年報1981
11	檀考研	発掘	上牧4424	松里園2号墳	10D-6	宅地造成	1982.0114-0213	県概報1981
12	県教委	発掘	桜ヶ丘2丁目	馬見丘陵化石出土地	10B-90	宅地造成	1985.0122-0331	県概報1984
13	檀考研	発掘	桜ヶ丘2丁目	穴闇遺跡	10B-44	宅地造成	1985.0507-0525	県概報1985
14	檀考研	試掘	上牧字大砂	回り山古墳群	10B-8他	上牧町文化センター	1990.1212	檀考研年報平成2年度
15	檀考研	踏査	上牧3776外			宅地造成	1995.0112	檀考研年報平成6年度
16	檀考研	踏査	上牧3764			自治会館建設	1995.0308	檀考研年報平成6年度
17	檀考研	踏査	上牧字間谷			上牧第3小学校建設	1995.0428	檀考研年報平成7年度
18	檀考研	発掘	上牧524	遺物散布地	10D-1	宅地造成	1996.0617-0619	県概報1996
19	檀考研	踏査	上牧3245外	回り山古墳群	10B-8他	上牧町保健福祉センター	1997.1204	檀考研年報平成9年度
20	檀考研	試掘	下牧919外	下牧瓦窯跡	10B-7	町道改良工事	2002.1216-1219	上牧町文化財調査報告1
21	檀考研	発掘	下牧919外	下牧瓦窯跡	10B-7	町道改良工事	2003.0616-0711	上牧町文化財調査報告1
22	檀考研	踏査	上牧1596外	大谷瓦散布地	10D-143	墓地造成	2009.0706	檀考研年報平成21年度
23	檀考研	試掘	上牧1596外	大谷瓦散布地	10D-143	墓地造成	2009.0826-0828	県概報2009
24	檀考研	踏査	上牧3171外	遺物散布地	10B-129	店舗・宅地造成	2009.1112	檀考研年報2009・本書
25	上牧町	試掘	上牧3171外	遺物散布地	10B-129	店舗・宅地造成	2011.0121-0329	本書
26	檀考研 上牧町	踏査	上牧字久渡	久渡古墳	10D-3	宅地造成	2011.0530-0531	県概報2011・上牧町文化財調査報告2
27	上牧町	試掘	上牧字久渡	久渡古墳	10D-3	第1次調査	2011.1107-12.0321	上牧町文化財調査報告2
28	上牧町	立会	下牧1-906-3	下牧瓦窯跡	10B-7	宅地造成	2011.11.28	
29	檀考研 上牧町	踏査	上牧1596外	大谷瓦散布地他	10D-143他	遺跡確認	2012.0322-0325	青陵第139号
30	上牧町	発掘	上牧字久渡	上牧久渡3・4号墳	10D-225・226	第2次調査	2012.0528-0811	上牧町文化財調査報告2
31	上牧町	踏査	上牧2155外			店舗造成	2012.0601	
32	上牧町	発掘	上牧字久渡	上牧久渡5号墳	10D-227	第3次調査	2012.1217-13.0318	上牧町文化財調査報告2
33	上牧町	立会	上牧3719-1	木辻城跡	10B-118	無線基地局設置	2013.0613	
34	上牧町	発掘	上牧字久渡	上牧久渡2号墳	10D-224	第4次調査	2013.0821-14.0327	上牧町文化財調査報告2
35	上牧町	発掘	上牧字久渡	上牧久渡1号墳	10D-3	第5次調査	2014.0519-1014	上牧町文化財調査報告2
36	上牧町	立会	下牧962-3外	下牧瓦窯跡	10B-7	宅地造成	2014.0711	

調査機関名・奈良県立檀原考古学研究所-檀考研、奈良県教育委員会-県教委

平成9（1997）年には、上牧町保健福祉センターの建設計画にともない、予定地の踏査が行われた。隣接する回り山古墳群の踏査も同時に行われたが、いずれも遺跡・古墳は確認されなかった。

第3節 トレンチ調査の結果

調査地は馬見丘陵の西南部、標高70～80mの丘陵地であり、開発地西側は滝川が北に流れる。調査区の最高所は83.7mである。丘陵地は調査前には、山林・畑として利用されており、等高線が緩い箇所が確認できる。丘陵地周辺の現状は、近年、北側では宅地造成、西側では上牧町関連施設の建設や店舗・住宅開発が行われており、地形の変化が著しい。

調査区は開発計画に基づいて、丘陵地を東西2箇所に設定した。東調査区は第1～21トレンチ、西調査区は第22～28トレンチに分割した。以下、各トレンチの概要を説明する。

（1）東調査区 第1～11トレンチ（図5・7・8、図版4・8～15）

南東側最高所77.8mを起点に調査区東側から東・南・北に派生する尾根と谷部及び窪地に11箇所のトレンチを設定した。

第1トレンチ（面積54㎡）

東調査区の丘陵部に位置し、踏査結果では平場とされていた。現状は畑であり、北側に派生する尾根の先端部に当たる。

トレンチは、尾根に平行する形で長さ27m・幅2mを設定した。

調査の結果、表土下は褐色土及びにぶい黄褐色粘土で、厚さはそれぞれ20～40cm、10～50cmを測る。遺構は確認されなかった。遺物はトレンチ南側の表土より近世の磁器碗（図11-3）が出土した。

第2トレンチ（面積107㎡）

第1トレンチの南隣に位置し、踏査結果では平場とされていた。現状は山林と竹林で、北側に延びる尾根の南端に当たる。

トレンチは、尾根に平行する形で長さ10m・幅2.5mと長さ36m・幅2m及び長さ5m・幅2mを2本設定した。

調査の結果、表土下は暗緑灰色粘土で、厚さは10～50cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第3トレンチ（面積58.6㎡）

第2トレンチの西側斜面に位置し、現状は山林である。

トレンチは、谷に直交する形で東西に長さ11.5m・幅3.7m及び長さ8m・幅2mを設定した。

調査の結果、傾斜地及び谷で溝状の落ちが確認された。表土下の土層は上層より、にぶい黄褐色粘土・砂質土とにぶい黄褐色土である。層の厚さはそれぞれ10～20cm、20～70cm、10～50cmを測る。また、谷及び傾斜地の溝より近代の瓦片が多量に出土した。ほかに遺構・遺物は認められなかった。



図3 調査位置図（『大和国条里復原図』1981に加筆 1/5,000）

第4トレンチ（面積27.4㎡）

第2トレンチ東側に位置し、現状は竹林と窪地である。かつて、ここには池が存在し、東側の水田に導水していたという。

トレンチは、南北に長さ13.7m、幅2mを設定した。

調査の結果、表土下は淡黄色土と褐色土が中央に流入する堆積を確認した。層の厚さはそれぞれ15～40cm、40～80cmを測る。遺構は認められなかった。遺物は淡黄色土より、須恵器甕の口縁部片（図11-1）が出土した。

第5トレンチ（面積16.4㎡）

第2トレンチ東側の窪地に設定した。現状は竹林である。

トレンチは、土塁状の起伏に直交する形で東西に長さ8.2m、幅2mを設定した。

調査の結果、表土下は淡黄色土が東西の低地部に流入する堆積を確認した。層の厚さは10～30cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第6トレンチ（面積17.2㎡）

第2トレンチ東側の窪地に設定した。現状は竹林である。

トレンチは、第4トレンチの南側に接するように長さ8.6m、幅2mを設定した。

調査の結果、表土下は淡黄色土が北側に流入する堆積を確認した。層の厚さは20～40cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第7トレンチ（面積12㎡）

第2トレンチ東側の窪地に設定した。現状は竹林である。

トレンチは、第5トレンチに接するように東西に長さ6m、幅2mを設定した。

調査の結果、表土下は淡黄色土が東側に流入する堆積を確認した。層の厚さは10～30cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第8トレンチ（面積73.4㎡）

尾根の最高所から東側に派生する尾根上に位置し、踏査結果では平場とされていた。現状は山林である。

トレンチは、平場に直交する形で東西に長さ2.7m・幅2mと長さ34m・幅2mを2本設定した。

調査の結果、表土下は暗褐色土であり、トレンチ東側への緩傾斜を確認した。層の厚さは15～40cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第9トレンチ（面積16㎡）

第8トレンチの東側傾斜地に位置する。現状は山林である。

トレンチは、傾斜地に平行する形で東西に長さ8m、幅2mを設定した。

調査の結果、表土下は暗褐色土であり、土層断面ではトレンチ東側への傾斜を確認した。層の厚さは20～40cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第10トレンチ（面積64m²）

尾根の最高所から南側に派生する尾根上に位置し、踏査結果では傾斜部にはおちこみと土塁状の起伏とされていた。現状は山林で、南西に急傾斜で下る。

トレンチは、おちこみと土塁状の起伏に直行する形で「く」の字状に長さ32m、幅2mを設定した。

調査の結果、表土下の土層は上層より、にぶい黄褐色粘土・暗褐色土・オリーブ色粘質土・褐色土で、厚さはそれぞれ25～50cm、40～60cm、10～40cm、10～20cmを測る。遺構は確認できなかった。遺物はトレンチ北側の表土より土師器皿の破片（図11-2）が出土した。



図4 調査区位置図（1/4,000）

第11トレンチ（面積52m²）

尾根の最高所から南西側に派生する尾根上に位置し、踏査結果では2段の平場とされていた。現状は山林であり、南西側は急傾斜である。

トレンチは、尾根に平行する形で北東から南西にかけて長さ26m、幅2mを設定した。

調査の結果、土層断面では、上層より灰白色砂中砂とにぶい黄褐色粘質土が確認された。層の厚さはそれぞれ15～30cm、20～30cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

（2）東調査区 第12～18トレンチ（図5・8、図版16～19）

調査区西側の最高所80mを起点に北・東側に派生する尾根と谷に8箇所のトレンチを設定した。

第12トレンチ（面積12.6m²）

中央南側の尾根から東側に傾斜する尾根上に位置し、現状は山林である。

トレンチは、北東から南西にかけて長さ6.3m、幅2mを設定した。

調査の結果、表土下は黄褐色粗砂及び黄橙色中砂混りの褐灰色土ブロックで、厚さはそれぞれ15～50cm、10～80cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第13トレンチ（面積28m²）

中央南側の尾根上に位置し、現状は山林である。

トレンチは北西から南東にかけて長さ14m、幅2mを設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色粘質土で、厚さは10～30cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第14トレンチ（面積43m²）

中央南側尾根から北西側に傾斜する尾根上に位置し、現状は山林である。

トレンチは、北西から南東にかけて長さ12m・幅2mと長さ9.5m・幅2mを2本設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色粘質土で、厚さは20～60cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第15トレンチ（面積26m²）

中央南側尾根から北西側に傾斜する尾根上に位置し、現状は山林である。

トレンチは、北西から南東にかけて長さ13m・幅2mを設定した。

調査の結果、遺構・遺物は認められなかった。

第16トレンチ（面積20m²）

中央尾根の最高所から南東側に傾斜する尾根に位置する。現状は山林である。

トレンチは、北西から南東にかけて長さ10m・幅2mを設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色粘質土で、厚さは5～10cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

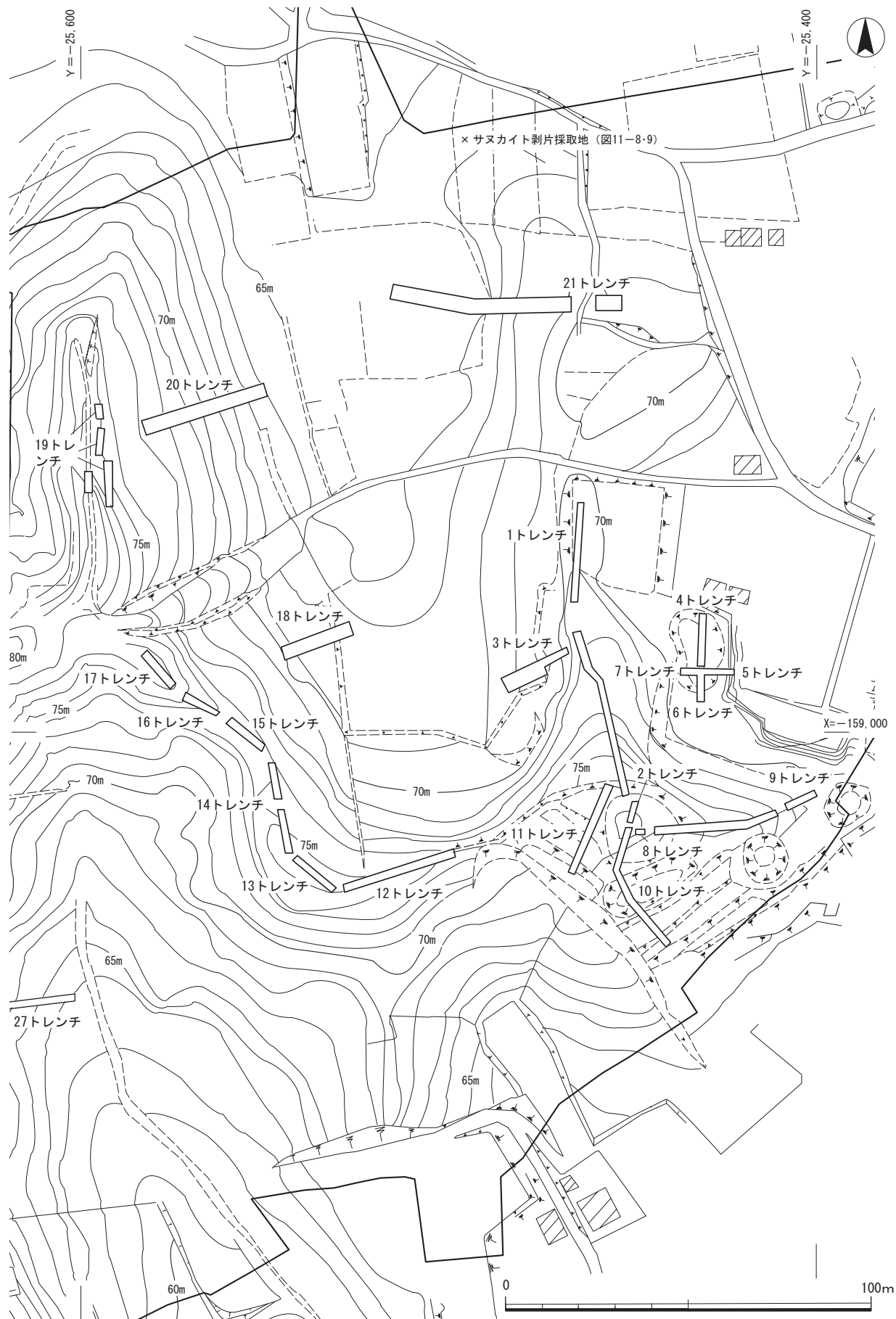


図5 東調査区トレンチ位置図 (1/1,500)

第17トレンチ（面積24㎡）

中央尾根の最高所80mから南東側に傾斜する尾根に位置しており、現状は山林である。

トレンチは、北西から南東にかけて長さ12m、幅2mを設定した。

調査の結果、表土下は灰白色中砂で、厚さは20～60cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第18トレンチ（面積80㎡）

第16トレンチ東側の傾斜地に位置しており、現状は山林である。

トレンチは、谷に直交する形で長さ20m・幅4mを設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色粘質土で、厚さは20～55cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

（3）東調査区 第19～21トレンチ（図5・8・9、図版4・5・19～21）

調査区中央80mから北側に派生する尾根と谷部に5箇所及び第1トレンチの北側に2箇所のトレンチを設定した。

第19トレンチ（面積62㎡）

調査範囲の中央北側で第17トレンチの北側尾根部に位置し、踏査報告では平場とされていた。現状は山林であり、トレンチ東側の一部は地山の灰白色細砂が一部露出している状況であった。

トレンチは、平場に直交する形で南北の頂上部に長さ5m・幅2mを1本、傾斜地には長さ8m・幅2m、長さ6m・幅2m、長さ12m・幅2mを3本設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色粘質土で、厚さは10～150cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第20トレンチ（面積140㎡）

第19トレンチの東側の傾斜地に位置する。現状ではぶどう畑の金網が残存していた。

トレンチは、谷に直交する形で東西に長さ35m・幅4mを設定した。

調査の結果、表土下は、にぶい黄褐色粘質土と明黄褐色粘質土混りの灰白色土ブロックで、厚さはそれぞれ10～90cm、10～60cmを測る。遺構・遺物も認められなかった。

第21トレンチ（面積224㎡）

第20トレンチ東側に位置し、現状は東側平坦地と中央の傾斜地が竹林、西側の谷部が畑である。踏査結果では、調査区北方の畑で土師器片とサヌカイト剥片（図11-8・9）が採取されていた。

トレンチは、谷に直交する形で東西に長さ7m・幅4mと長さ49m・幅4mを2本設定した。

調査の結果、表土下は上層より、にぶい黄褐色細砂・にぶい黄褐色土・灰黄褐色土である。層の厚さはそれぞれ10～50cm、20～30cm、10～50cmを測る。トレンチ中央傾斜地及び谷で溝が確認された。遺物は東トレンチ表土より近世の磁器皿（図11-7）、西トレンチ傾斜地の溝より近世の磁器碗（図11-4～6）、近代の磁器片及び瓦片が混在する状況で出土した。



図6 西調査区トレンチ位置図 (1/1,500)

(4) 西調査区 第22～28トレンチ (図6・9・10、図版6・7・9・22～28)

西調査区の丘陵部及び谷部に位置する。試掘調査前では第23・25・27トレンチにおどろ畑の金網がそのまま残存していた状態であった。尾根に第22～25トレンチ、尾根から谷に下る傾斜地に第26～28トレンチを設定した。

第22トレンチ (面積110㎡)

西側の丘陵、最高所77mから北西に派生する尾根上に位置し、現状は山林である。

トレンチは、尾根に平行する形で「く」の字状に長さ55m・幅2mを設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色土で、厚さは5～30cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第23トレンチ (面積150㎡)

西側の丘陵、最高所77mから北東に派生する尾根上に位置し、現状は山林である。第23トレンチなどの一部の表土には、地山の灰白色砂質土の露出が一部確認された。

トレンチは、尾根に平行する形で北東から南西にかけて長さ33m・幅2mと長さ42m・幅2mを2本設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色土で、厚さは10～110cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第24トレンチ (面積90㎡)

西側の丘陵、最高所77mから南東に派生する尾根に位置し、現状は山林である。

トレンチは、尾根に平行する形で北西から南東にかけて、長さ10m・幅2mと長さ35m・幅2mを2本設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色土で、厚さは10～60cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第25トレンチ (面積66㎡)

西側の丘陵、南東に派生する尾根に位置し、現状は山林である。

トレンチは、尾根に平行する形で北西から南東にかけて長さ13m・幅2mと長さ20m・幅2mを2本設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色土で、厚さは10～50cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

第26トレンチ (面積92㎡)

西側の丘陵、北西に派生する尾根から谷に下る傾斜地に位置し、現状は山林である。

トレンチは、傾斜地に直交する形で長さ26m・幅2m及び長さ16m・幅2.5mを設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色土で、厚さは10～130cmを測る。遺構・遺物は認められなかった。

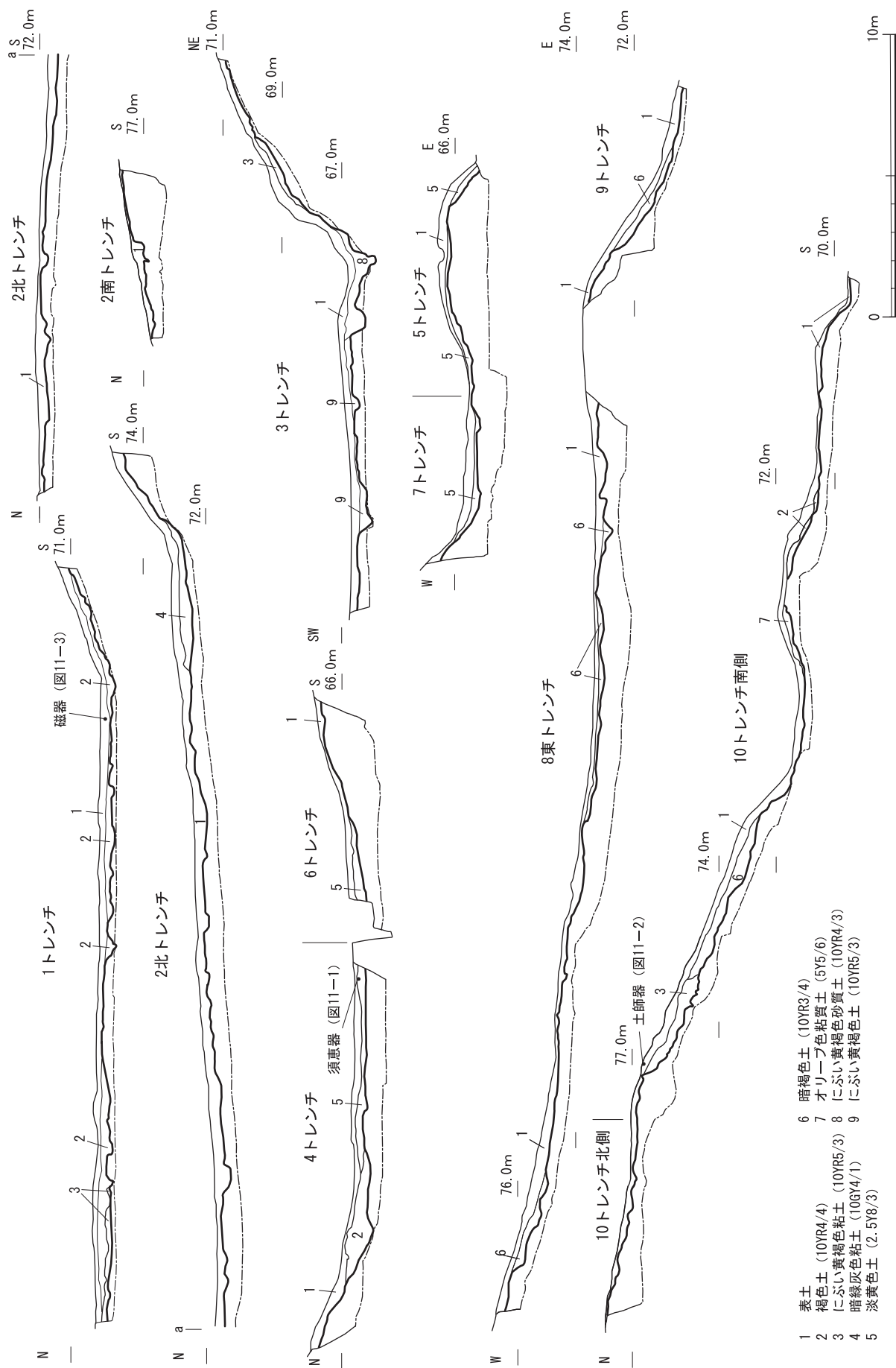


図7 1～10トレンチ断面図 (1/200)

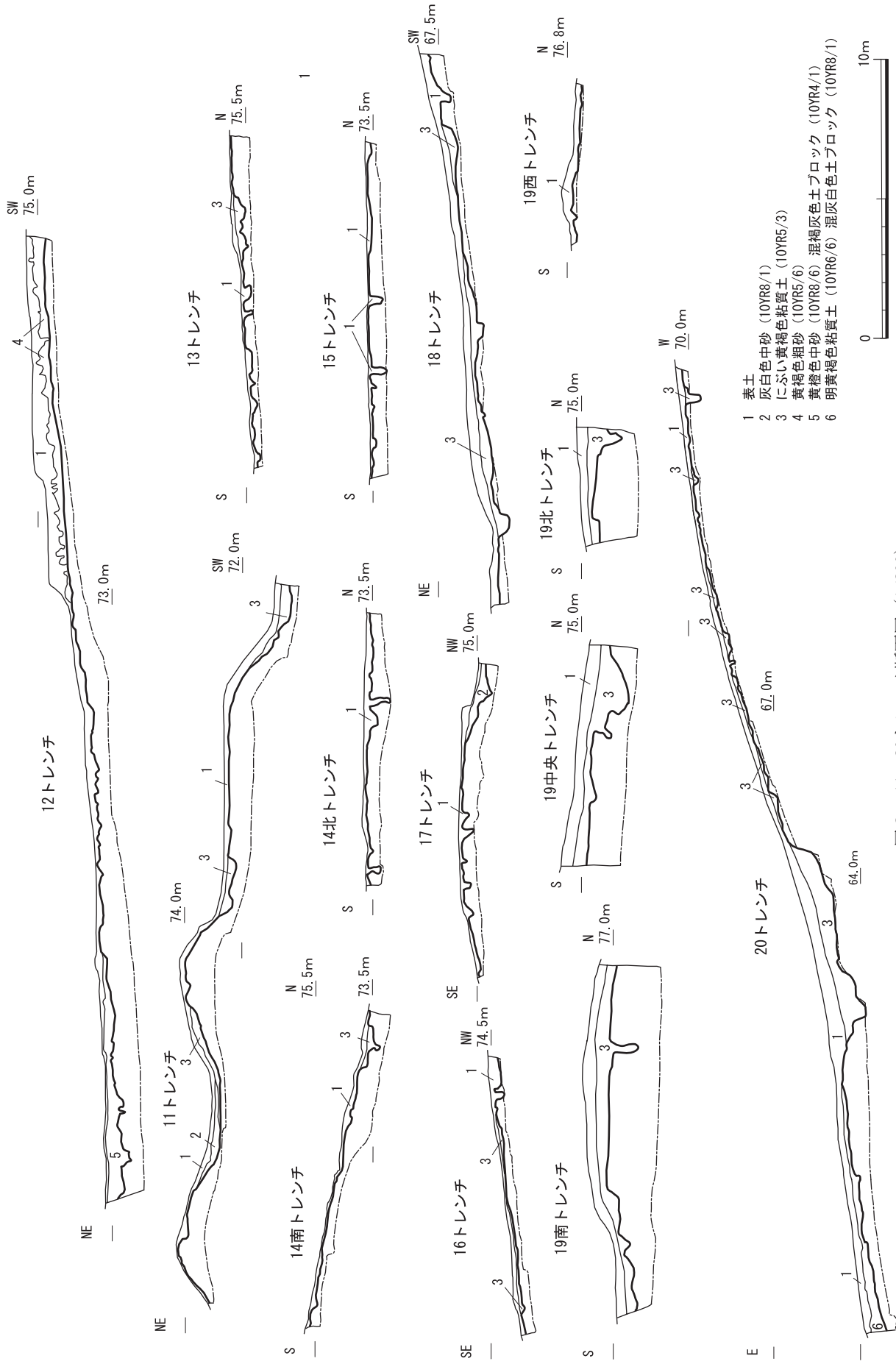


図8 11~20トレンチ断面図 (1/200)

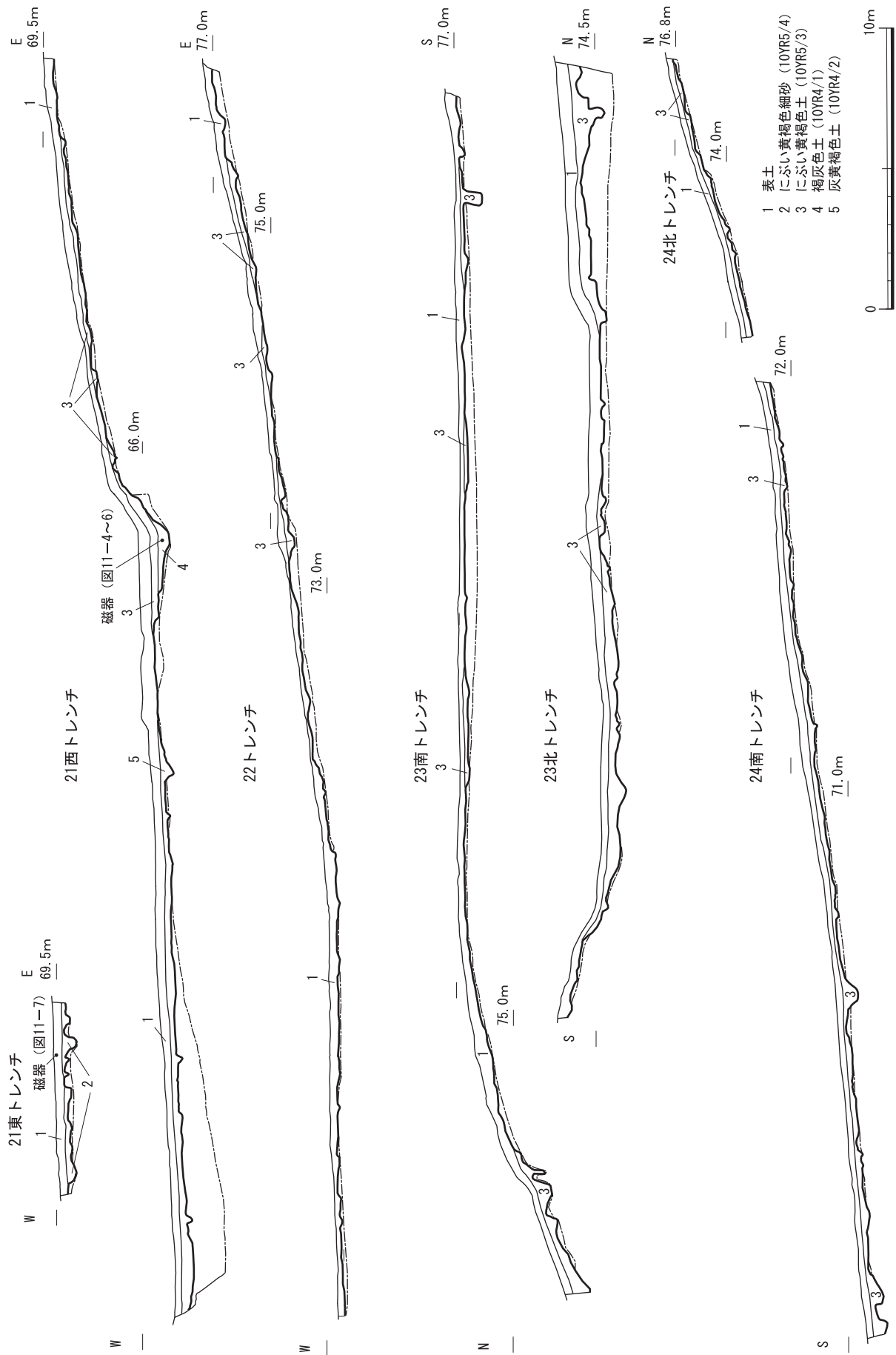


図9 21～24トレンチ断面図 (1/200)

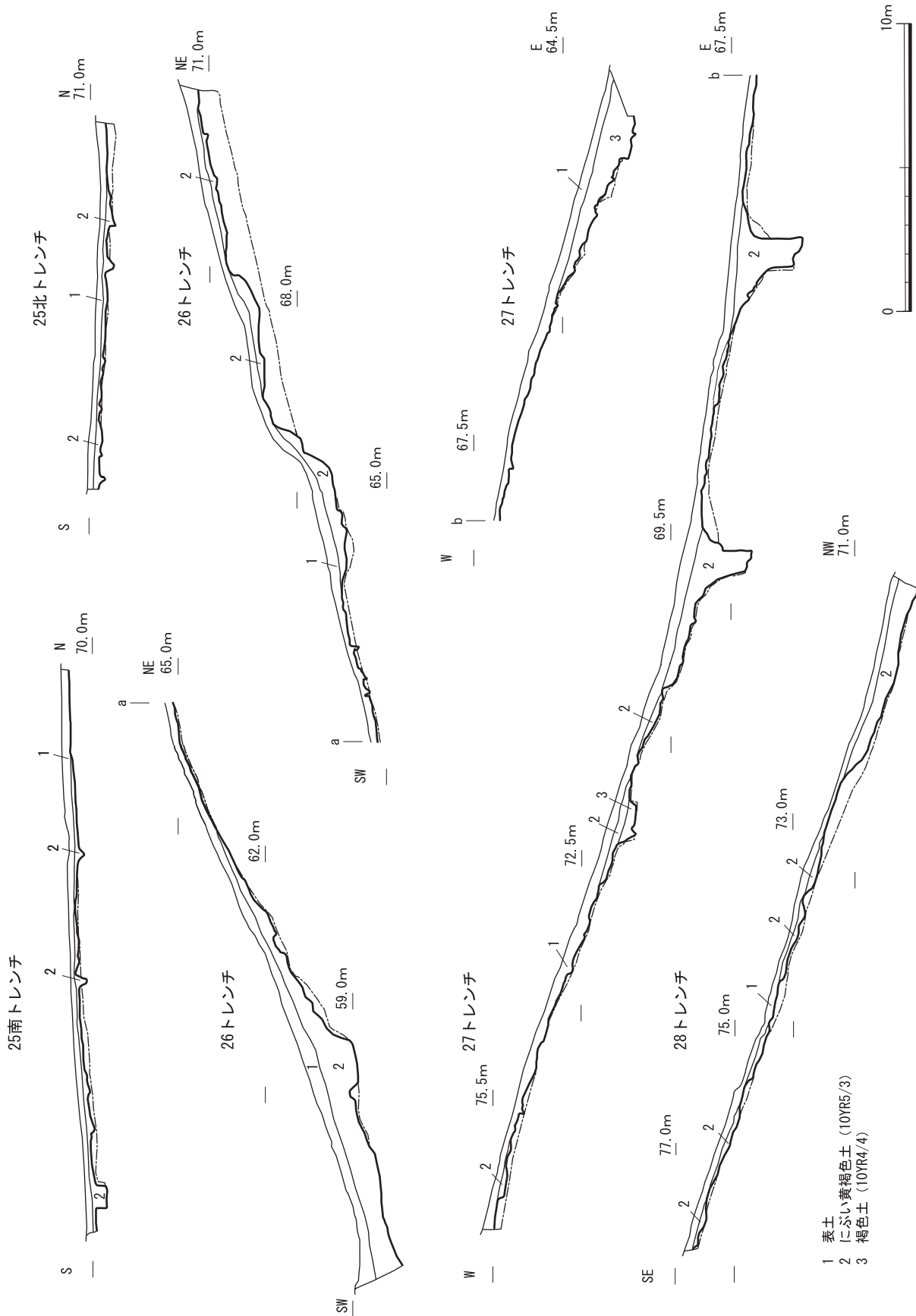


図10 25～28トレンチ断面図 (1/200)

第27トレンチ（面積112㎡）

西側の丘陵、北東に派生する尾根から谷に下る東の傾斜地に位置し、現状ではぶどう畑の金網が
残存していた。

トレンチは、傾斜地に直交する形で長さ56m・幅2mのトレンチを設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色土・褐色土で、厚さはそれぞれ20～200cm、20～120cmを測
る。遺構・遺物は認められなかった。

第28トレンチ（面積44㎡）

南西側の丘陵、北東に派生する尾根から谷に下る北西の傾斜地に位置し、現状は山林である。

トレンチは、傾斜地に長さ22m・幅2mを設定した。

調査の結果、表土下はにぶい黄褐色土で、厚さは10～50cmを測る。遺構・遺物は認められなかつ
た。

第Ⅳ章 出土遺物

遺物は土師器、須恵器、磁器が出土したが、そのうち実測可能なものを掲載する。（図11）

1は第4トレンチ表土下から出土した須恵器甕の口縁部である。口縁部は外反し、端部はやや玉
縁状である。色調は灰色を呈し、胎土は長石を含む。焼成は良好。時期は奈良時代以降である。

2は第10トレンチ北側頂上部の表土から出土した土師器の口縁部で、いわゆる「て」字状の皿で
ある。口縁部は外反後、端部を丸めて玉縁状にする。色調は明褐色を呈し、胎土は長石を含む。焼
成は良好。時期は平安時代前期である。

3～7は近世の肥前系の磁器で、染付である。

3は第1トレンチ表土出土の碗の体部である。底径3.7cm、現高2.5cm。体部と高台外面には三条
の圏線を描き、見込みには蛇の目釉剥ぎを施す。高台内面には降灰が付着する。

4は第21トレンチ溝出土の碗の体部である。底径5.0cm、現高3.0cm。体部外面は草花文と一条の
圏線、高台外面には二条の圏線、見込みには線書きの文様を描く。

5は第21トレンチ溝出土の端反碗でほぼ完形に近い。口径11.0cm、底径4.2cm、器高6.0cm。外面
の口縁部から体部にかけて格子文と草花文、内面の口縁部には二重網目文を描く。

6は第21トレンチ溝出土の碗の体部である。底径5.3cm、現高1.4cm。体部と高台外面には三条の
圏線を描く。見込みには蛇の目釉剥ぎを施す。

7は第21トレンチ表土出土の皿の体部である。底径8.1cm、現高1.7cm。体部と高台外面には三条
の圏線を描く。また体部内面は草花文、見込みには二条の圏線を描く。

8・9は第21トレンチ北側方から採取された加工痕のある剥片であり、時期は不明である。8は
長さ3.1cm、幅4.1cm、厚さ0.8cm、9は長さ3.1cm、幅2.4cm、厚さ1.4cmである。

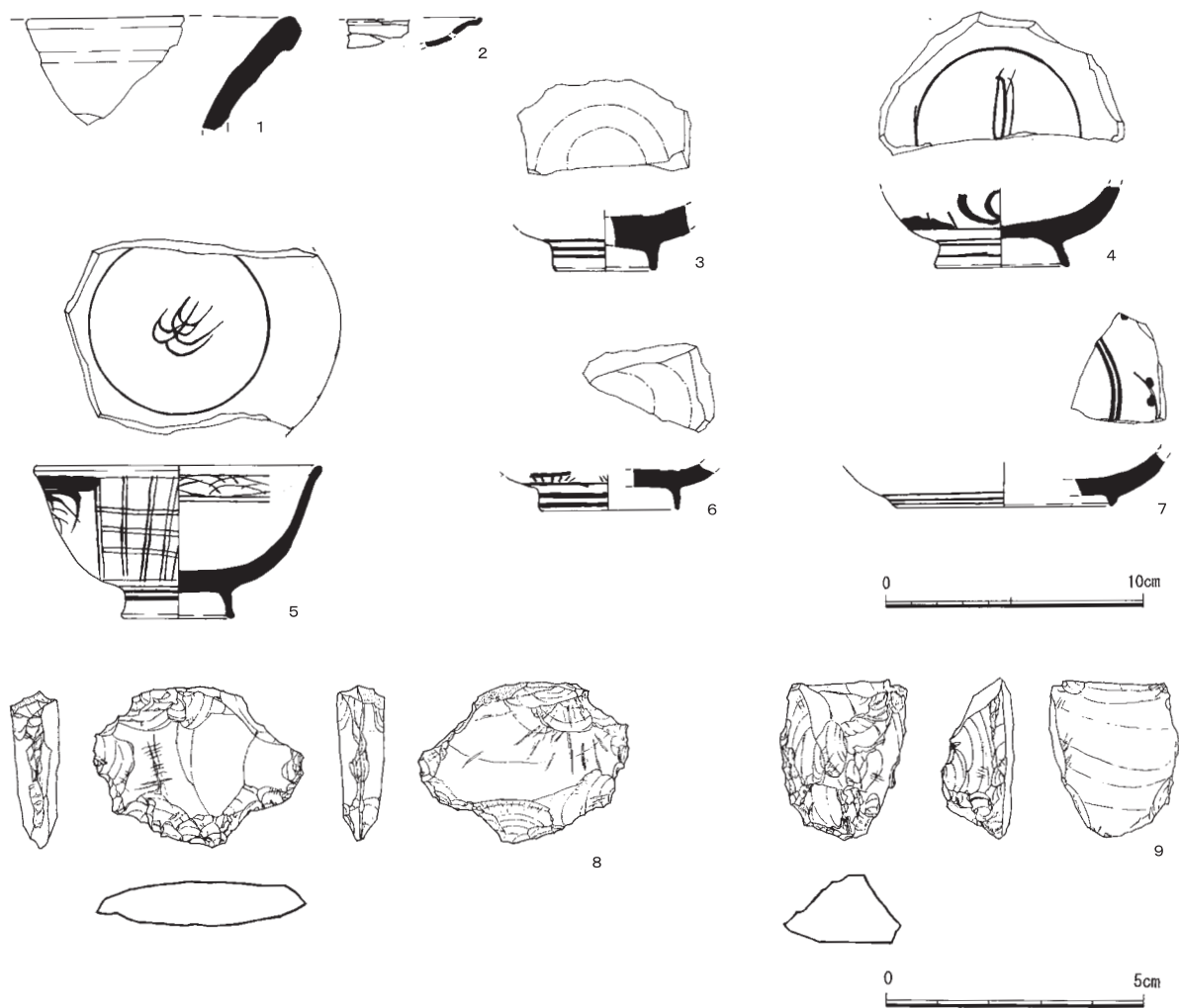


図11 遺物 土器・磁器（1～7）1/3、石器（8・9）2/3

第V章 まとめ

今回、調査区内において、28地点、37箇所にてトレンチを設定し、総延長783.5m、面積1821.6㎡の試掘調査を行った。

調査の結果、表土直下は、馬見丘陵を形成する「馬見累層」と呼ばれる大阪層群の橙色粘土または灰白色砂質土・細砂が広がり、これが調査区の地山となっている。

各トレンチにおいては、明確な遺構は認められず、第8・9トレンチで緩やかな傾斜面は認められたが、遺構としては確認できなかった。

遺物は、第1、10、21トレンチの表土と表土下より土師器、近世の磁器が出土した。第4トレンチでは表土直下の淡黄色土から須恵器が1点出土したが、土層断面では遺構と判断できる箇所は確認できなかった。これらの遺物は土砂の堆積により混入した可能性が高い。

遺物の出土状況から、少なくとも当該地は近世以降には現在の耕作地として利用され、また山林も広がるような環境であったと考えられる。

また、わずかではあるが、土師器片と須恵器片が出土した。土師器は10世紀末～11世紀前半頃の皿と思われる。また、須恵器甕の口縁部片は、詳細な時期は不明だが、おそらく奈良時代以降の須恵器と思われ、この皿に近い時期のようである。

これら、平安前期頃の土器は微量であるが、この時期の遺物は上牧町内では、これまで明らかではないため、注意されるものである。しかし、この時期の遺構はみられなかったため、遺跡の存在については確認できない。

また、近世の磁器も出土したが、遺構にともなうものではない。採集されたサヌカイト剥片は、その破面がかなり新しいが、石器としても、用途・時期については明らかではない。

以上のように、当該地においては、わずかな遺物が散布するのみで、試掘調査においては、明確な遺構を検出することはできなかった。

この結果、今回の調査区内においては、顕著な遺跡の存在は認められないものと思われる。

参考文献

上牧町役場1889『葛下郡上牧村全図』

上牧町役場1977『上牧町史』

上牧町教委・橿原考古学研究所(編)2005『下牧瓦窯発掘調査報告書』上牧町文化財調査報告第1集

上牧町教育委員会2015『上牧久渡古墳群発掘調査報告書』上牧町文化財調査報告第2集

河合町役場1981『河合町史』

河合町教育委員会2005『薬井瀧ノ北遺跡 船戸・西岡遺跡』

奈良県教育委員会1962『奈良県史跡名勝天然記念物調査抄報』第15輯

奈良県教育委員会1973『遺跡調査室だより』NO.3

奈良県立橿原考古学研究所1974-2009『奈良県立橿原考古学研究所年報』

奈良県立橿原考古学研究所1982「上牧町松里園古墳発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報』1981年度

奈良県立橿原考古学研究所1985「穴闇」『奈良県遺跡調査概報』1984年度

奈良県立橿原考古学研究所1986「穴闇遺跡」『奈良県遺跡調査概報』1985年度

奈良県立橿原考古学研究所1997「上牧遺物散布地試掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報』1996年度

奈良県立橿原考古学研究所2009「遺物散布地(北葛城郡上牧町上牧地内)」『奈良県遺跡調査概報』2009年度

奈良県立橿原考古学研究所2014『青陵』第139号

圖 版



調査地全景（上空より・上が北）

昭和63（1988）年1月撮影



調査地遠景（南西より）

平成24（2012）年8月撮影



調査地伐採後遠景（南西より）

平成24（2012）年9月撮影



調査区西側遠景（南東より）



調査区東側遠景（南東より）



第8・9トレンチ調査前遠景（北より）



第21トレンチ調査前遠景（西より）



第19トレンチ調査時遠景（東より）



第19トレンチ北側調査前丘陵地（東より）



第27トレンチ調査前遠景（北より）



第23トレンチ調査前遠景（北東より）



第26トレンチ調査前遠景（西より）



第25トレンチ調査前遠景（西より）



第5・7トレンチ調査前近景（北西より）



第4・6トレンチ調査前近景（南より）



第1・21トレンチ調査前近景（南より）



第27トレンチ調査前近景（東より）



第1トレンチ全景（南より）



第2北トレンチ南半部全景（北より）



第2南トレンチ全景（北より）



第3トレンチ全景（北東より）



第4トレンチ全景（北西より）



第4～7トレンチ全景（南より）



第6トレンチ全景（北西より）



第7・5トレンチ全景（南西より）



第8東トレンチ全景（西より）



第9トレンチ全景（東より）



第10トレンチ北側全景（北より）



第11トレンチ全景（北より）



第12トレンチ全景（東より）



第13トレンチ全景（北西より）



第14南トレンチ全景（南より）



第15トレンチ全景（南東より）



第16トレンチ全景（南東より）



第17トレンチ全景（南東より）



第18トレンチ全景（西より）



第19西トレンチ全景（南より）



第20トレンチ全景（西より）



第20トレンチ全景（東より）



第21東トレンチ全景（東より）



第21西トレンチ全景（東より）



第22トレンチ東側全景（東より）



第22トレンチ西側全景（北西より）



第23北トレンチ全景（南より）



第23南トレンチ全景（南より）



第24北トレンチ全景（北西より）



第24南トレンチ全景（南東より）



第25北トレンチ全景（南東より）



第25南トレンチ全景（北西より）



第26トレンチ北側全景（北東より）



第26トレンチ南側全景（北東より）



第27トレンチ全景（西より）



第27トレンチ全景（東より）



第28トレンチ全景（南東より）



第28トレンチ全景（北西より）

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせいにじゅうにねんどまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ			
書名	平成22年度埋蔵文化財発掘調査報告書			
副書名				
巻次				
シリーズ名	上牧町文化財調査報告			
シリーズ番号	第3集			
編著者名	関川尚功・石橋忠治			
編集機関	上牧町教育委員会			
所在地	上牧町大字上牧3350番地 TEL.0745-76-1001			
発行年月日	2016年3月31日			
北緯 34° 34' 02" 東経 135° 43' 15"				
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村番号	発掘期間	
10B-0129	<small>かんまきちやうおのおあざかんまき</small> 上牧町大字上牧	29424	2011年1月21日～2011年3月29日	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
10B-0129		平安時代、江戸時代	なし	須恵器、土師器、磁器、サヌカイト剥片

平成22年度埋蔵文化財発掘調査報告書

(上牧町文化財調査報告第3集)

平成28年3月31日

発行 上牧町教育委員会
奈良県北葛城郡上牧町大字上牧3350番地

印刷 東洋印刷株式会社
奈良県桜井市三輪371